

Yukihide Nukiba

Art Works



Profile

貫場 幸英

Yukihide Nukiba

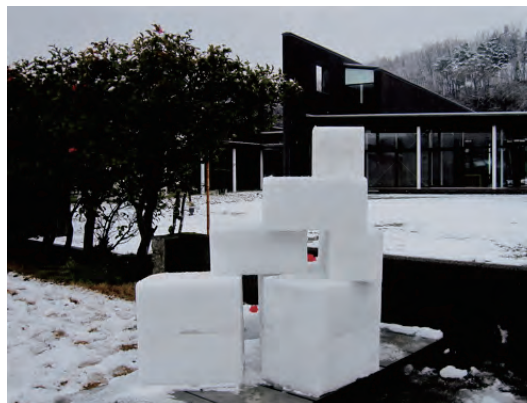
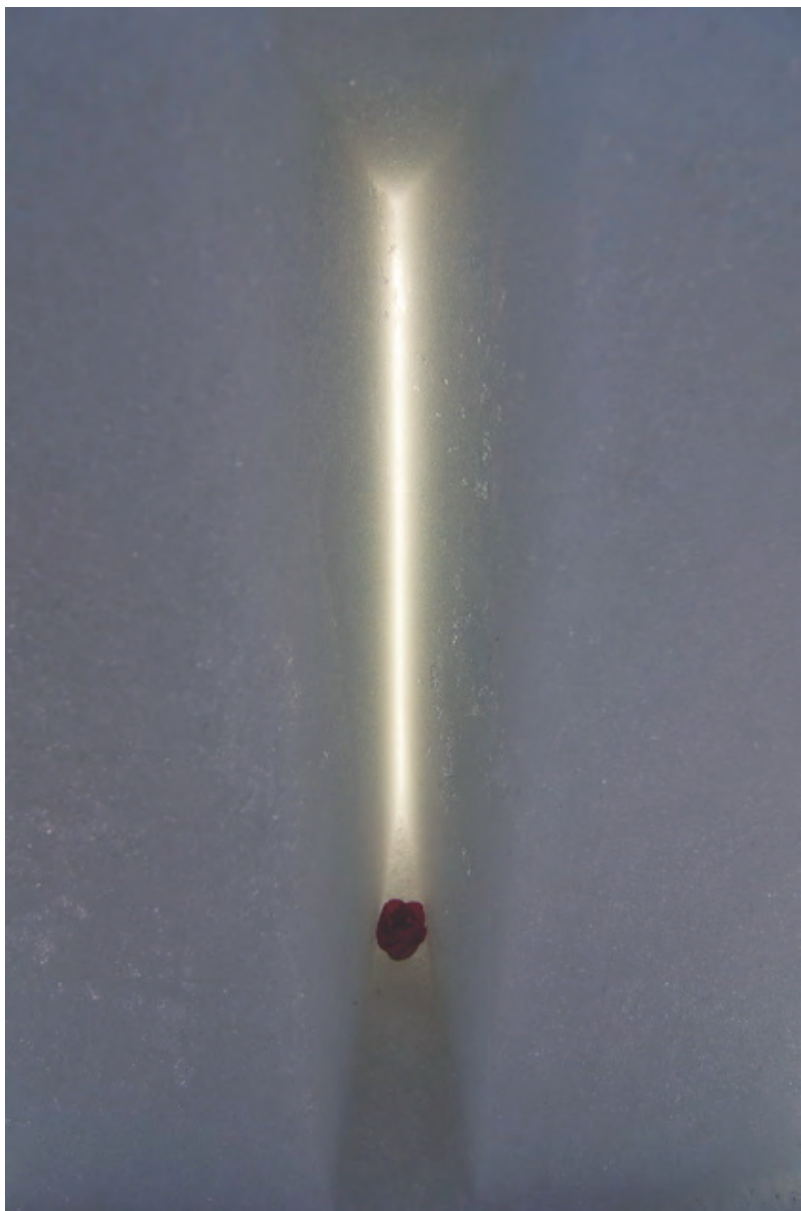
1962年富山市生まれ。学生時代、アルペンスキーで全日本選手権8位を獲得。卒業後、家業の瓦工事店を継ぎ、職人の道を歩み、一級技能試験を富山県1位で通過する。その後、以前から興味があった世界各国の建築やアートを巡った後に、「デザインとアートとスポーツの融合」を信念に掲げ、株式会社ヴェガを設立。故郷、大山を基盤に「木と出会うまちづくり」、「LIVING ART IN TOYAMA」などさまざまなデザイン・アートプロデュースに関わる。また、様々な素材を使って、リビングアーティストとして作品も発表している。近年は企業の新規事業のプロデュースを開始するなどその活動は多方面にわたる。

経歴

- 2001 「木と出会うまちづくり」のデザインプロデュースを開始
- 2006 講談社出版文化賞 ブックデザイン賞プロデュース
- 2007 アートスペースVEGAを設立
- 2009 紙袋を折り変える展(折形デザイン研究所)
- 2011 BLOCKを考案
北海道中礼内村北伏古 彫刻家 坂東優氏の招待により、
PS.北伏古オープンスタジオ Moved at MORNING The work of 5 artists 映像作品を出展
- 2012 ナガオカケンメイによるNIPPON DESIGN TRAVEL - 47都道府県のデザイン旅行-展にて、
富山県のキーマンとして出展
- 2013 北海道PAPELにて「繋壁」設置
- 2014 東京新丸ビルライブラリー展にて行なわれた「富山の森と海」展へ「木中」を出展
パピエブランプロジェクト総合プロデューサーに就任
光が拡散するガラスとアクリルのブロックシステムを発表
「FUKUSAWA」を発表
ウッドブロック「turn」を発表
- 2015 「白布」を発表
- 2016 鳥居セメント工業総合プロデューサーに就任
- 2017 富山大学芸術文化学部 社会連携推進授業を担当する
雑誌「Discover Japan」にてLIVING ARTを特集される
雑誌「Stuben Magazine」"シュプールというドローイング"というタイトルで原稿を執筆
長友啓典に捧ぐ「レインボーボード」を発表
KAKI CABINET MAKER と共同で家具を超えたカタチ「シュプール」を発表
このプロジェクトによりVEGAの理念であった「アートとデザインとスポーツの融合」を
カタチにすることに成功した。
- 2018 「稲荷公園フリーアートキャンパス」アートディレクター就任
- 2019 鳥居セメント工業新ブランド「テラクリエ」発表
富山子供児童館に「turn」寄贈
VEGA新ロゴ発表
- 2020 鳥居セメント工業新ブランド「TOSTEKA」発表
D&DEPARTMENT TOYAMA 「Torii Black and White Exhibition」をプロデュース
- 2021 「富山市ストリートピアノプロジェクト」アートディレクター就任
「a wing plate」を発表
「光プレート」を発表
「Lブロックシステム」を考案

CONTENTS

01	プロフィール	Profile
03	スノーブロック	Snow block
04	紙の間 × 白布	Kaminoma × Hakuhu
05	土の間の水盤 × 白布	Suiban × Hakuhu
07	木中	Woodcube Space
08	PAPEL繋壁	PAPEL Woodcube Wall
09	繋壁 × turn	Woodcube Wall × turn
10	FUKUSAWA	
11	白箱彩	Happousai
12	パピエブラン	Papier Blanc
13	レインボーバード	Rainbow Bird
14	シュプール	Spur
15	テラクリエ	Terra Crea.
16	Turn	Turn
17	VEGA ロゴ	VEGA LOGO
18	稲荷フリーアートキャンバス アートディレクション	INARI FREE ART CANVAS Art Direction
19	記憶の彩	Kioku no Irodori
20	トスティーカ	TOSTEKA
21	Torii Black and White Exhibition	
22	ウイングプレート	a wing plate
23	光プレート	Hikari Plate
24	Lブロックシステム	L-Block System
25	富山市ストリートピアノプロジェクト アートディレクション	Toyama City Street Piano Project Art Direction



スノーブロック
Snow block

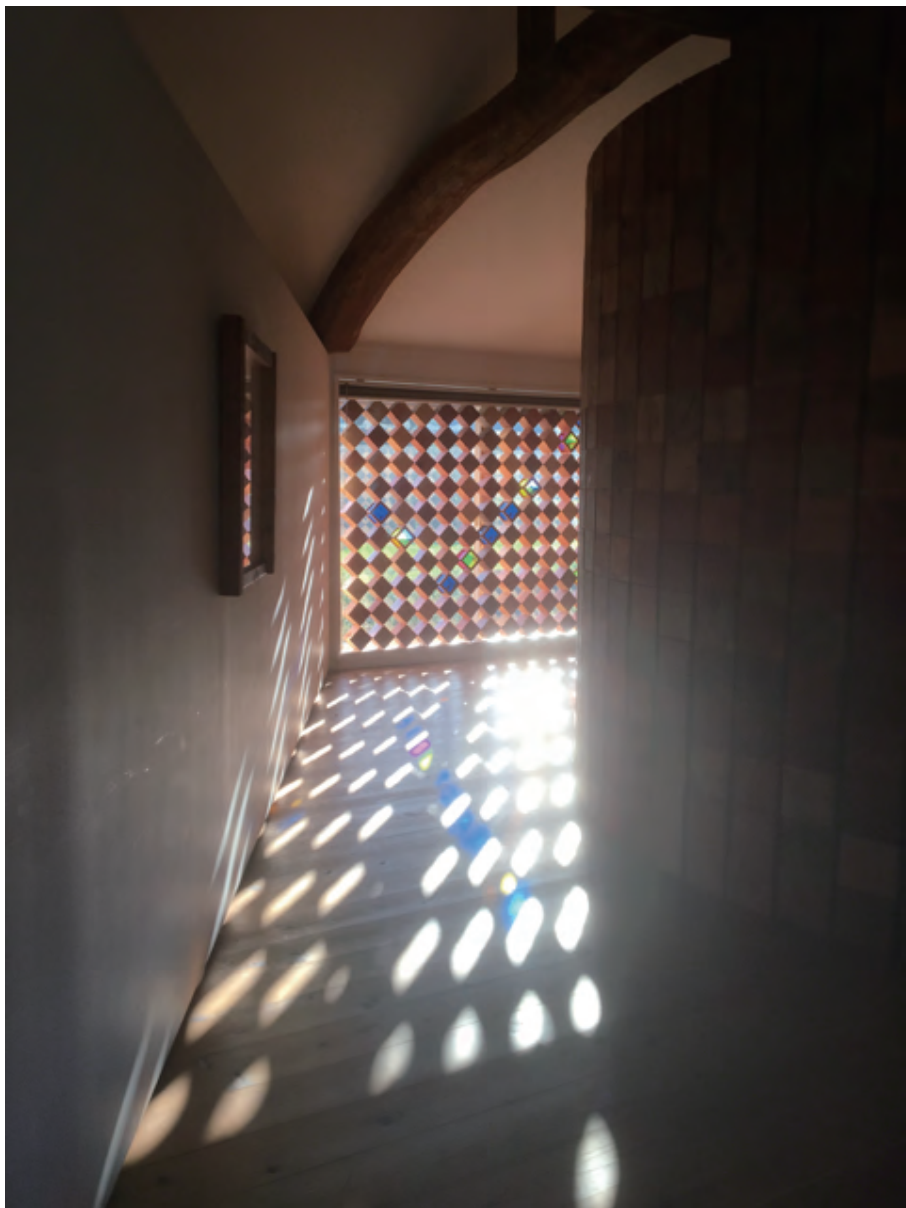


紙の間×白布
Kaminoma× Hakuhu



土の間の水盤×白布
Suiban× Hakuhu





木中
Woodcube Space



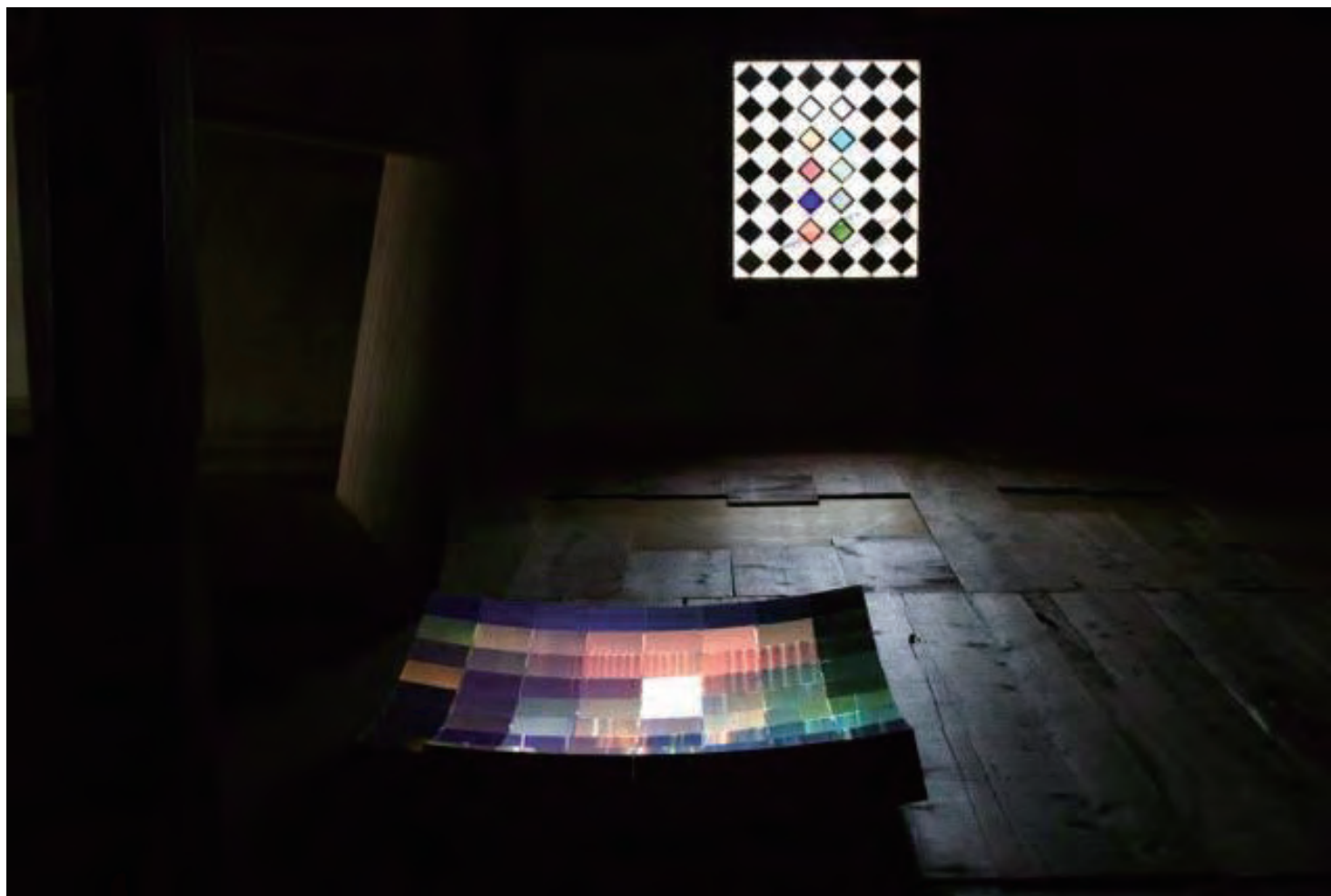
PAPEL 繫壁
PAPEL Woodcube Wall



繫壁 × turn
Woodcube Wall × turn
LIVING ART in OHYAMA 2014 出展作品



FUKUSAWA



白箱彩
Happousai

プロデュース・映像「新緑」 賞場 幸英
デザイン 小泉 誠



パピエブラン
Papier Blanc
空間・プロダクト総合プロデュース
www.papierblanc.jp



レインボーバード
Rainbow Bird



テラクリエ
terra-crea.



今から 36 年前のこと、私は粟巣野というスキー場で今は亡き柿谷誠さんに声をかけられたのがきっかけとなり、粟巣野の KAKI で柿谷さん夫妻と一緒に暮らしながらスキーのトレーニングを重ねた。ある時、柿谷さんに案内されて KAKI の家具を見せてもらった時に、一脚の椅子に目が止まった。その椅子は KAKI のスタイルとはまるで違っていて、そのことを柿谷さんに聞いたら「粟巣野に来た時に私がのみ一本で作った椅子さ」とさらっと答えてくれた。その椅子はひと彫りひと彫りが力強くかつ繊細だった。

今年の春、私はある依頼を柿谷さんの弟である正さんをお願いした。その依頼作品の一部を目にした時、私の中で 36 年前のあの日の出来事がフラッシュバックのように蘇った。そして私は柿谷さんの原点であるあの椅子をモチーフにして「家具を超えたカタチ」にチャレンジしたいと正さんともう一人の弟である清さんに申し出た。カタチは私たちが愛した雪とスキーの言語を使いながらイメージを共有し、柿谷さんと同じようにのみ一本で制作してもらった。

そして三つのオブジェのような家具のカタチが生まれた。

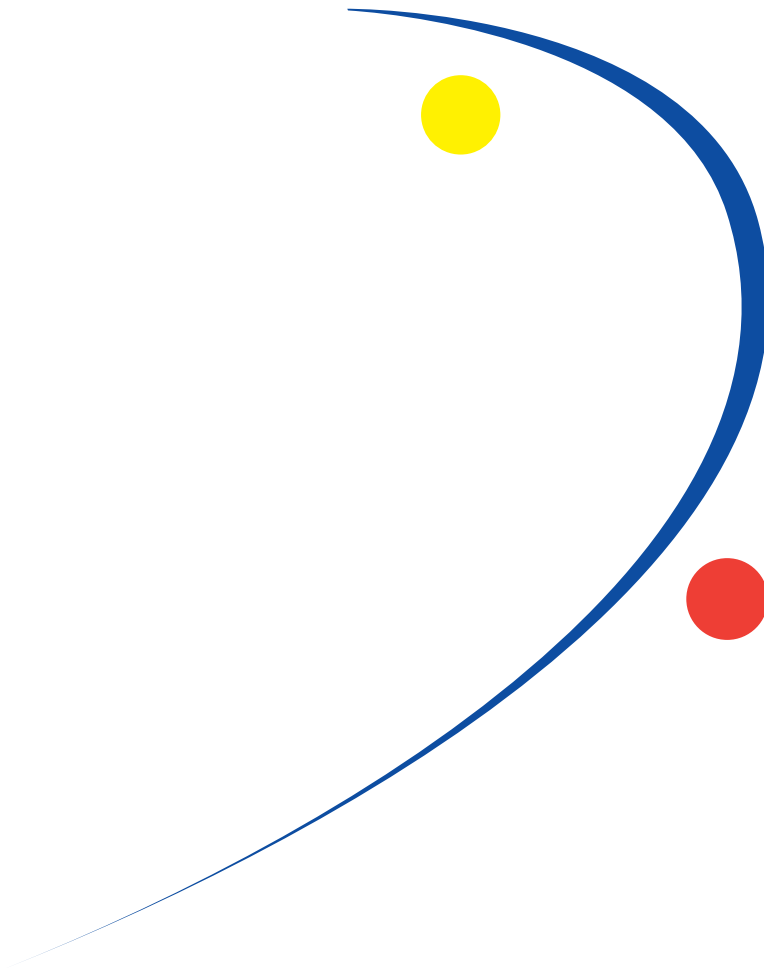
その家具の表情は見るものの位置や光によって変化し、それはまるで抽象画のようだ。また春先に雪面に現れる「スプーンカット」のようにも見える。随所に見られるいくつものカーブはスキーのターンをイメージして仕上げていった。この家具はスキーを愛した者たちが辿り着いたアートとデザインとスポーツが融合したカタチなのだ。私はこの三つのオブジェのような家具のカタチの作品名を「シュプール」と名付けることにした。36 年の歳月をかけて柿谷誠さんの痕跡を二人の弟さんたちと一緒にカタチにできたことを嬉しく思う。これからもスキーを愛する者たちからこの「シュプール」が生まれ続けられることを願ってやまない。

シュプール
Spur



turn

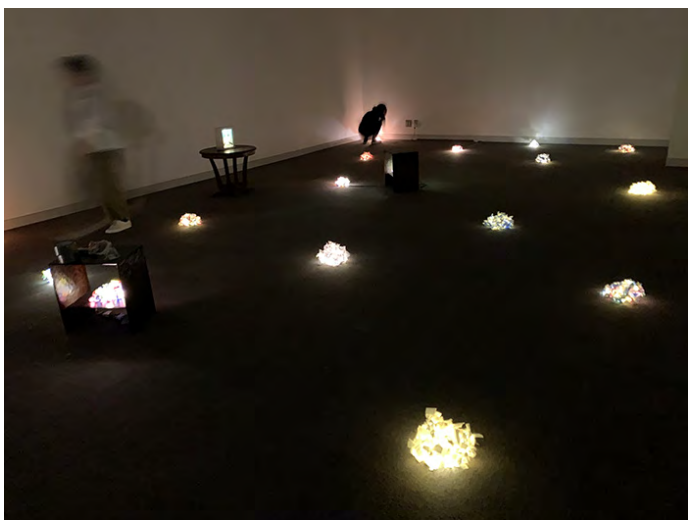
富山こども児童館寄贈



VEGA LOGO



稲荷フリーアートキャンバス
INARI FREE ART CANVAS



LIVING ART IN TOYAMA 2019 特別展示

人は生まれ育って行く中で様々な衣を身に纏う。
その成長して行く過程の中で役目を終えた衣。

その数々の衣を纏って生きてきた時間を切り取り、
LED にリボンとして結んでいく…。

自身の人生を繋ぎ合わせ、楽しかった頃の「記憶」が
いつまでも自身の空間で彩られる事を願ってやまない。

記憶の彩 Kioku no Irodori



富山県の立山町にオープンした、美と健康がテーマのレストラン「立山ヘルジアンウッド」に、鳥居セメント工業でプロデュースした「テラクリエ」シリーズのプレート、カトラリーステイ、花器 (FLAT) と、「トスティーカ」シリーズのハンガーラック、ハンガーフック、アンブレラスタンドが採用された。



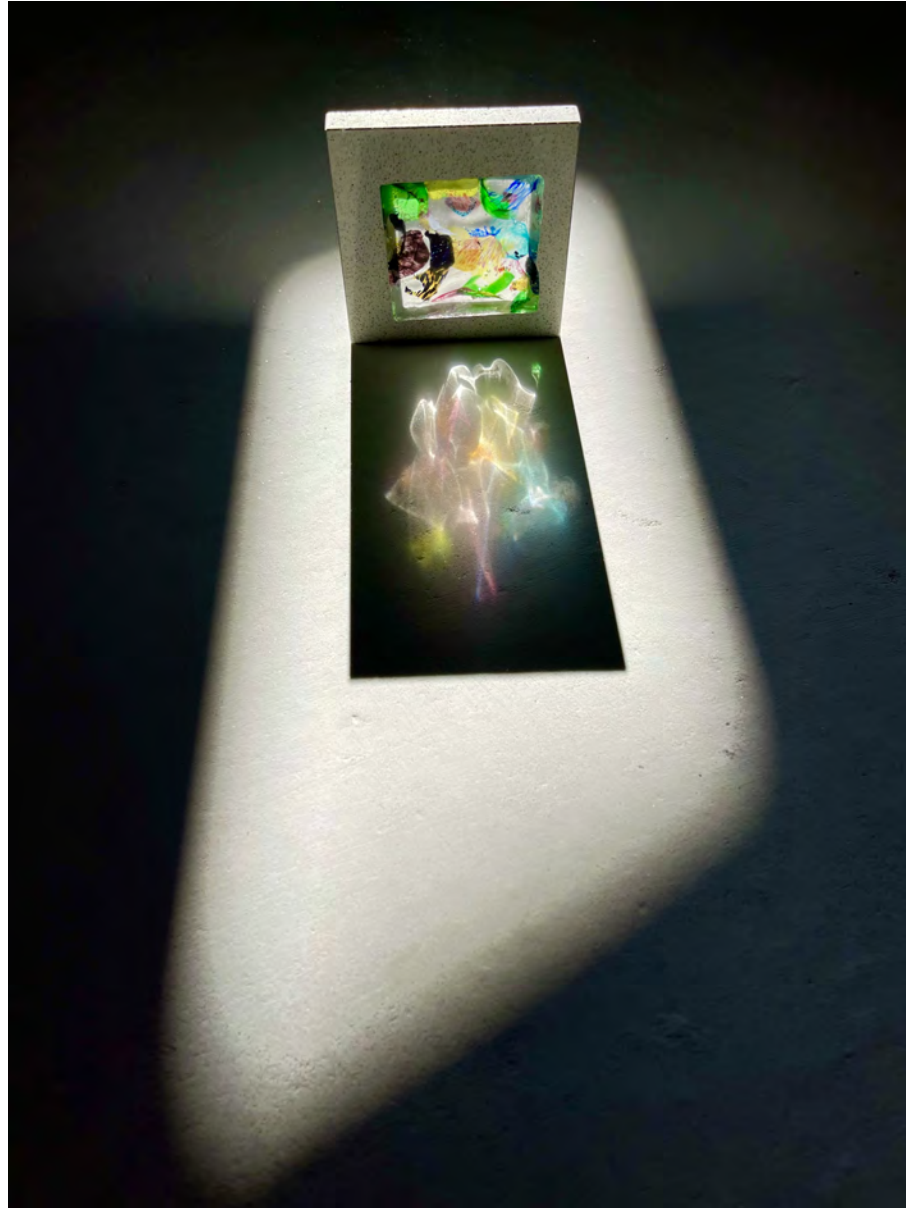
トスティーカ
TOSTEKA
立山ヘルジアンウッド



Torii Black and White Exhibition
D & DEPARTMENT TOYAMA



ウイングプレート
a wing plate



光プレート
Hikari Plate



Lブロックシステム
L-Block System



富山市ストリートピアノプロジェクト
Toyama City Street Piano Project